

くにしていじゅうようむけいみんぞくぶんかざい  
国指定重要無形民俗文化財

# いたばし たあそ 板橋の「田遊び」



むかし いたばしく すいでん はたけ ひとびと こめ おぎ こくもつ つく  
昔、板橋区にはたくさんの水田や畑があり、人々は米や麦などの穀物を作っていました。

「田遊び」は、穀物が豊かに実り、子孫が繁栄することを祈る伝統芸能です。

えんじゃ おも にん しゅどうしゃ おおいなもと ほさやく こいなもと くわど えんじゃ  
演者は主に3人で、主導者の「大稲本」、補佐役の「小稲本」と「鋤取り」です。演者は、  
うた うご いちねんかん いなさく ようす やく じかん えん  
唄や動きにより、一年間の稲作の様子を約2時間かけて演じます。

えんじゃ うご み いなさく ばめん えん そうぞう  
演者の動きを見て、稲作のどんな場面を演じているのか、想像してみましょう。

つぎ しょ たあそ み とくちょう うた うご こと  
次の2ヶ所で田遊びを見ることができます。それぞれ特徴があり、歌や動きが異なります。

かんしょう ややくふよう どうじつちよくせつ かいじょう  
鑑賞は予約不要です。当日直接、会場にきてください。

※2021年の「田遊び」は、新型コロナウイルスの影響により「非公開」で行われます。鑑賞はご遠慮  
ください。

# 1. 徳丸北野神社

住所：板橋区徳丸6-34-3（東武東上線「東武練馬駅」  
または三田線「高島平駅」から徒歩20分）



徳丸北野神社の田遊びは、毎年2月11日の午後6時頃から行われます。

西暦995年に神社を建てた時から始まりまし。それ以来、一度も休むことなく続けられています。

内容 一年間の稲作の様子を、次の順番で演じます。

- ① 村の苗床（種をまいて苗を育てるための場所）の数を調べます。
- ② 鋤（土を掘り起こす道具）を使って田をならし、その後さらに、牛が道具を引いて田をならします。
- ③ 種をまきます。
- ④ 田を荒らす鳥を追い払います。苗の育成状況を見て回ります。
- ⑤ 田を掘り起こし、肥料を入れます。
- ⑥ 苗の生育と子どもの成長を祈るため、象徴的な儀式を行います。「鋤取り」が「早乙女」と呼ばれる男の子を高く持ち上げ、「大稲本」と「小稲本」は男の子を扇であおぎます。
- ⑦ 農作業の昼休みを表現する踊りが舞われます。その後、穀物が豊かに実ることを祈る踊りがいくつか続きます。
- ⑧ 田の雑草を取り除きます。田を見て回り、生育を確かめます。
- ⑨ 稲を刈り取り積み上げます。最後に、豊作をお祝いする言葉を述べ、手拍子で終わります。

# 2. 赤塚諏訪神社

住所：板橋区大門11-1（三田線「新高島平駅」から徒歩15分）

赤塚諏訪神社の田遊びは、毎年2月13日の午後7時頃から行われます。

いつから始まったか詳しいことはわかっていませんが、18世紀後半の書物にこの田遊びのことが書かれています。



内容 神輿渡御（お神輿が神社を出て回ること）の後、「九字の舞」などが演じられます。そのあと境内（神社の敷地内）にもどり、一年間の稲作の様子を次の順番で演じます。

- ① 村の苗床（種をまいて苗を育てるための場所）の数を調べます。
- ② 鋤（土を掘り起こす道具）を使って田をならし、その後さらに、「大足」という道具で田をならします。
- ③ 種をまきます。
- ④ 苗に水をかけ、田を荒らす鳥を追い払います。
- ⑤ 田を掘り起こします。牛が道具を引いて、田をならします。
- ⑥ 弁当箱を持った人物が登場します。そのあと、夫婦が踊りながら登場します。
- ⑦ 田に苗を植えます。田を荒らす鳥を追い払います。
- ⑧ 田の雑草を取り除きます。田を見て回り、生育を確かめます。
- ⑨ 稲を刈り取ります。最後に、稲を褒めたたえ、倉に入れます。